

平成 27 年度 神奈川県
視聴覚・放送教育研究合同大会
横浜大会

第 27 回 神奈川県学校視聴覚教育研究大会
第 34 回 神奈川県放送教育研究大会
第 55 回 神奈川県高等学校学校視聴覚教育研究大会

見つめ、かかわり、高め、未来を生きぬく
～豊かな学びの創造～



平成 27 年 11 月 20 日(金)
みどりアートパーク（緑区民文化センター） 他

《主催》

神奈川県学校視聴覚教育研究協議会
NHK 横浜放送局

神奈川県放送教育研究協議会

《主管》

横浜市学校視聴覚教育連絡協議会

神奈川県高等学校視聴覚教育研究会

《共催》

横浜市教育委員会

《後援》

神奈川県教育委員会

神奈川県立学校長会議

神奈川県市立高等学校長会

神奈川県公立中学校長会

神奈川県公立小学校長会

横浜市立中学校長会

横浜市立小学校長会

横浜市立高等学校長会

神奈川県公立中学校教育研究会

神奈川県公立小学校教育研究会

横浜市立中学校教育研究会

横浜市立小学校教育研究会

目次

・大会主題	1
・あいさつ	2
・お祝いの言葉	4
・大会日程	5
・記念講演	6
・分科会構成	7
・公開授業	8
・会場へのアクセス	9
・分科会提案	10
・各大会のあゆみ	17
・大会索引名簿	25

大会主題

見つめ、かかわり、高め、未来を生きぬく

～豊かな学びの創造～

大会趣旨

文部科学省では“ICT の活用等による新たな学びの推進”を謳い『子供たち一人ひとりの「生きる力」を確実に育成するため、「情報活用能力」の育成、ICT の活用による協働型、双方向型の授業革新、校務の情報化による教員の負担軽減を推進します。』と言っています。NHKでは「NHK for School」を改編しながら充実・拡大をすすめ、放送番組とともに学習に利活用できるデータやデジタルコンテンツを提供し、新しい学習のあり方を提案しています。こうした流れの中、子供たちにとっての学びを豊かにすべく、本大会の主題を「見つめ、かかわり、高め、未来を生きぬく」としました。

主題を子供たちの姿として表わしましょう。まず「見つめ」とは、子供たち自身が自分の目で物事を見ることで、課題意識を持ったり見通しを立てたりすることです。更に多様な考えを持つことにもなります。次に「かかわり」とは、コミュニケーションを深めることです。子供同士のコミュニケーションによって、多様な考えを受け入れるだけでなく、認め楽しもうとすることができるようになります。そして「高め」とは、見通しを持ち、筋道を立てて考えようとする力～情報活用の実践力をつけていくことです。それぞれの過程において、文部科学省が謳っている“ICT の活用等による新たな学びの推進”によって『子供たち一人ひとりの「生きる力」』が『確実に育成』され、「未来を生きぬく」ことにつながっていくのです。

最近の研究によれば、一人1台のPCが必ずしも効果的とは言えないようです。ともすれば「活用したい、活用すれば学力が向上する」というイメージでとらえがちです。機器の進歩に合わせるのではなく、10年、20年、更に30年後を見据え、子供たちが地に足を付けて歩んでいける力をつけられるような学びの推進をしていきましょう。

本日は、公開授業を行うとともに、各地区からの分科会提案による研究討議を通して、サブテーマである“豊かな学びの創造”を感じていただくことができるものと確信しております。そして、本大会主題が今後の神奈川県の見聞・放送教育を支えていけるものでありたいと思っております。

最後になりますが、主題にもある「かかわり」が子供たちだけでなく、大人にとっても大切な考え方であり、必要なことだと考えております。そのような意味からも、本日の基調講演をいただく下村健一先生のおっしゃる「情報のキャッチボール」を大切にしていきたいと思っております。

ご挨拶

神奈川県学校視聴覚教育研究協議会
会長 栗原 裕

平成27年度神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会「横浜大会」が、県内の視聴覚教育・放送教育に携わっておられる多くの皆様のご参加をいただき開催できますことを心よりお慶び申し上げます。

文部科学省では、あらゆる機会にあらゆる場所で学習することができる環境を目指し、学校教育の情報化として、子供たち1人1人の「生きる力」を確実に育成するため、「情報活用能力」の育成、ICTの活用による協働型、双方向型の授業革新、校務の情報化による教員の負担軽減などを推進しています。

校務支援システムの導入・活用が始まり、業務が見直され、標準化されることにより児童・生徒と触れ合う時間が確保され、教育実践のための時間もうみ出されています。また、実物投影機やフラッシュ型教材、デジタル教科書など、ICTを効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実現や情報活用能力の育成が追究されています。

こうした中、「見つめ、かかわり、高め、未来を生きぬく～豊かな学びの創造～」を大会主題として本大会が開催されますことは大変意義深いことであり、本大会を契機に視聴覚教育・放送教育・情報教育に関する研究が各地区で進み、教師力向上が図られますことを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり、横浜市学校視聴覚教育連絡協議会、神奈川県高等学校視聴覚教育研究会、NHK横浜放送局をはじめ、大会準備にご尽力いただきました皆様、ご支援をいただきました神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会をはじめとする関係機関、関係団体の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

ご挨拶

神奈川県放送教育研究協議会
会長 川口 潤一郎

この度、平成27年度神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会横浜大会が、県内の視聴覚・放送教育に携わっておられる多くの皆様にご参加いただき開催できますことを心より感謝申し上げます。

本大会の主題は、「見つめ、かかわり、高め、未来をいきぬく ～豊かな学びの創造～」となっております。昨秋の文科省諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」により、「アクティブ・ラーニング」という言葉がクローズアップされるようになりました。言い換えると「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」となりますが、さらには、「何を教えるか」の質や量の改善だけでなく、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりが重要で、そのための指導方法等を充実させていく必要があるとされています。それはまさに本大会主題にもつながっていくものと捉えております。

また、「どのように」という観点においても、視聴覚および放送教育における役割は大きなものになると思われます。これまで、本研究協議会では授業におけるNHKの豊富な教育番組やコンテンツの利用およびタブレット端末などICT機器の効果的な活用について、研究を進めてまいりました。本大会の内容が、ご参会の皆様の今後の教育活動に少しでもお役に立てばと願っております。

結びになりますが、本大会を開催するに当たりご支援ご協力をいただきました基調講演の下村先生をはじめNHK、各教育委員会等、諸団体の皆様、さらには会場を提供してくださった小中学校の皆様、提案発表者、指導助言書の方々、最後に、大会運営にご尽力いただきました皆様へ心より感謝とお礼を申しあげ、挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

横浜市学校視聴覚教育研究連絡協議会
会長 赤村 晋

平成27年度神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会横浜大会を開催できますことに深く感謝申し上げます。

21世紀に入り、情報通信ネットワークの発達は私たちの暮らしを大きく変えました。放送教育においては、インターネットを通じて放送番組を自ら選んで視聴できるようになりました。視聴覚教育・情報教育においては、タブレット端末は、子どもたちが情報を共有しやすく、問題解決のために意見交換しながら協働で学習するために有効な道具として機能し始めました。まさに、21世紀を生き抜いていく力を身に付けるために重要な役割を担うものであると考えられます。

一方、多くの人がスマートフォンなどに釘付けになり、困っている人に目が行き届かないような状況も生み出しました。また、情報そのものの正確さや人権への配慮が乏しいまま、情報を発信したり受けとめたりしているような状況があります。

放送教育や視聴覚教育はもちろん教育そのものが基盤としてきた生命尊重や人権尊重の精神が脅かされているような危惧さえ抱かざるを得ません。本大会を通して、放送教育や視聴覚教育が子どもたちの豊かな心を育むために行われてきたことを確認できるような場となりましたら、これほど大きな喜びはありません。

最後になりますが、本大会の開催にあたり、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、NHK 横浜放送局をはじめ、多くの関係団体の皆様にご協力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。

ご挨拶

神奈川県高等学校視聴覚教育研究会
会長 栗原 峰夫

関係各位のご協力とご指導のもと、本大会が開催されますことに感謝申し上げますとともに、大会の開催準備に尽力された皆様に心から御礼を申し上げます。

さて、昨年12月の中央教育審議会答申を踏まえて、文部科学省は今年1月に「高大接続改革実行プラン」を策定し、2月に設置した高大接続システム改革会議で改革実現のための具体的方策について検討を進めています。目指しているのは、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜、三者の一体的改革です。

高等学校教育で特に重視されるのが、小中学校での実践を経て、大学や社会での活動へとつながる、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」です。その際に求められる力として問題解決力、チーム力、臨機応変力等が挙げられています。

これらの学習を展開し、生徒が確実に力を付けていくうえで、改めて大きな期待が寄せられているのが視聴覚・放送教育です。情報機器を使いこなす子どもたちの姿には目を見張るものがあり、彼らはものづくりの力も秘めています。ぜひともメディアリテラシーを身に付け、未来を切り拓いてほしいと願うばかりです。

本大会は、全体会をはじめ、各校種での公開授業、分科会（テーマ別交流会）を通して、子どもたちの成長を願う教員が学びを深め、実践や研究を共有する貴重な場となります。大会主題は「見つめ、かわり、高め、未来を生きぬく～豊かな学びの創造～」です。児童生徒の真の学力を育むべく、横浜で積極的に学び合いましょう。本大会が実りある大会となりますよう祈念しております。

お祝いの言葉

横浜市教育委員会
教育長 岡田 優子

平成27年度神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会が、県内各地で視聴覚・放送教育に携わっておられる多くの関係者の皆様をお迎えして、この横浜市中で開催されますことに心よりお祝いを申し上げますとともに、大会の開催準備に尽力された皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、本市では「世界で活躍できるためのグローバルな視点」、「自立して生きていく力」、「人を思いやる優しさと豊かな感性」などを身に付けた、未来を担う横浜の子どもを育むため、昨年12月に「第2期横浜市教育振興基本計画」を策定しました。その重点取組の一つに「先進的なICT教育の推進」を掲げ、市内8校の小中学校に各40台のタブレット端末を先行導入するなど、子どもたちの情報活用能力の育成、教員の指導方法の工夫改善、環境整備等に取り組んでいます。

この21世紀は、新しい知識・情報・技術があらゆる領域で活動の基盤としての重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代だと言われています。そのため、「生きる力」の重要な要素である「情報活用能力」を身に付けることは、今後ますます大切になってくることでしょう。

本大会の主題「見つめ、かかわり、高め、未来を生きぬく ～豊かな学びの創造～」は、まさにそうした今日的課題を踏まえたものと言えます。県下から多くの教育関係者が一堂に会し、意見や情報を交換することにより、県内の子どもたちの情報活用能力を伸ばすとともに、その学び方や将来の生き方にも大きな影響を与える取組になるものと期待をしております。

本大会が実り多いものになりますよう祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いの言葉

日本放送協会
横浜放送局長 大加 章雅

平成27年度神奈川県視聴覚・放送教育合同大会の開催おめでとうございます。学校教育に携わる皆様方には、日頃よりNHKの放送番組をご活用いただき、心より御礼申し上げます。

ラジオ、テレビ各教育番組が50年以上の歴史を刻む中、教育現場を取り巻く環境は大きく変化しております。様々な情報を教育に活用したり、情報活用能力を育成する教育を進めるなど、より一層「教育の情報化」への対応が求められています。NHKでは、教育番組とデジタル教材を連動させたホームページ「NHK for School」を展開しています。今年度のリニューアルでは、アクセスランキング順に番組やクリップ動画を並べるなど、より使いやすく、興味を持って学んでいただけるようになりました。

学校放送番組では、教育現場に期待されている“問題解決型の学習”に役立つよう、調べ学習のための動画クリップ映像を充実させた社会科の番組「未来広告ジャパン!」、道徳的テーマを扱う「新・ざわざわ森のがんこちゃん」など、保育所、幼稚園から高学年まで網羅した番組を放送しています。

学校放送番組以外でも、NHK横浜放送局では、「小さな旅」「新日本風土記」など神奈川ゆかりの番組を放送しています。地域を紹介する番組として、授業でもご利用いただければと思います。NHKはこれからも公共放送として、放送教育に関わる先生方や研究者との連携を大切にし、意義のあるコンテンツを開発・提供してまいります。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、準備、運営にご尽力いただきました関係者の皆様方に厚く御礼申し上げますとともに、本大会の成功を祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

大会日程

9:15	9:30	10:00	10:10	11:30	13:30	13:45	16:30
受付	全体会 (9:30～11:30)		昼食 移動	受付	小学校(13:30～16:30) 公開授業・交流会・分科会		
	開会行事	基調講演		受付	中学校(13:45～16:30) 公開授業・分科会		
					高等学校(13:45～16:30) 分科会		

- 全体会** 開会行事
- ・挨拶
 - ・来賓紹介
 - ・表彰
 - ・基調講演(下村健一氏)

分科会 会場と構成

<横浜市立長津田第二小学校>

13:30	14:15	14:35	15:20	15:30	16:30
公開授業		公開授業交流会 低・中・高・個別支援学級部会		分科会	

<横浜市立美しが丘中学校>

13:45	14:15	14:25	15:15	15:30	16:30
昨年度からの取組報告 (個別支援学級の授業におけるタブレット端末の活用 VTR放映あり)		公開授業交流会 低・中・高・個別支援学級部会		分科会	

<高等学校分科会会場 みどりアートパーク>

13:45	16:30
分科会	

基調講演

「メディアリテラシーを育てる」

～『想像力のスイッチ』をきっかけにして～



光村図書小学5年国語 「想像力のスイッチを入れよう」著者
慶應義塾大学特別招聘教授
関西大学特任教授
白鷗大学客員教授
市民メディア・アドバイザー

下村 健一 氏

【プロフィール】

- TBS 報道局アナ（スペース J、等）を 15 年務めた後、フリーキャスター（筑紫哲也 NEWS23、サタデーずばッと、等）10 年。
- その後内閣審議官（2 年任期満了後は民間契約アドバイザー）として計約 900 日、民主・自民の 3 政権で政府の情報発信に従事。
- 現在は慶應義塾大学、関西大学、白鷗大学で教鞭をとる他、小学教科書の執筆など幅広い年代の子ども達の教育に携わる。
- 世間の難しいコミュニケーションを橋渡しする《コミュニケーター》として働くことがモットー。

【主な著書】

『10 代からの情報キャッチボール入門——使えるメディア・リテラシー』 岩波書店
『首相官邸で働いて初めてわかったこと』 朝日新聞出版
『マスコミは何を伝えないか——メディア社会の賢い生き方』 岩波書店
『報道は何を学んだのか——松本サリン事件以後のメディアと世論』（共著書） 岩波書店

【講演メモ】

分科会構成

○小学校（横浜市立長津田第二小学校）

第 1 分科会 視聴覚教育

提案者	内容（テーマ）	助言者	司会	記録
千葉 道世 横須賀市立田浦小学校	豊かな心と確かな学びを育む視聴覚機器の活用 ～ワイヤレス実物投影機を使った授業実践～	関口 満 横須賀市教育研究所 指導主事	柳橋 富太郎 横須賀市立諏訪小学校	大貫 万里子 横須賀市立豊島小学校

第 2 分科会 放送教育

提案者	内容（テーマ）	助言者	司会	記録
藤沢 俊太 川崎市立中原小学校	「歴史にドキリ！」と動画クリップを活用したジグソー型学習	栃木 辰也 川崎市総合教育センター 情報・視聴覚センター 指導主事	田中 啓介 川崎市立有馬小学校	福山 里加 川崎市立西有馬小学校

第 3 分科会 情報教育

提案者	内容（テーマ）	助言者	司会	記録
加藤 圭脩 相模原市立鹿島台小学校	神奈川県相模原市の情報モラル教育の実践 ー『情報モラルハンドブック』を中心とした情報モラル教育の在り方ー	岡部 竜生 相模原市立総合学習センター 学習情報班	森本 然大 相模原市立陽光台小学校	村上 一仁 相模原市立西名北小学校

○中学校（横浜市立美しが丘中学校）

第 1 分科会 放送教育

提案者	内容（テーマ）	助言者	司会	記録
片山 真 川崎市立平中学校 木村 朋恵 川崎市立宮前平中学校	中学校理科における学校放送番組を利用した授業実践報告 ～NHK for school の有用性について～	和田 俊雄 川崎市総合教育センター 情報・視聴覚センター 指導主事	村上 典宏 川崎市立川中島中学校	町田 義広 川崎市立大師中学校

第 2 分科会 ICT 活用

提案者	内容（テーマ）	助言者	司会	記録
布目 圭佑 相模原市立中央中学校	中学校社会科における I C T 機器を用いた授業改善の研究	竹鼻 直樹 相模原市立総合学習センター 学習情報班	鈴木 達也 相模原市立中央中学校	都築 一成 相模原市立相陽中学校

○高等学校（みどりアートパーク）

提案者	内容（テーマ）	助言者	司会	記録
大石 智広 神奈川県立 麻生総合高等学校	アンケートシステムを利用したリアルタイムで行う授業の振り返り	柏木 隆良 前神奈川県立 鎌倉高等学校校長 前神奈川県教科研究会 情報部会長 前神奈川県高等学校 視聴覚教育研究会会長 前神奈川県高等学校文化連盟 放送・情報専門部会長	川又 弘明 神奈川県立 新城高等学校	海部 弘 神奈川県立 元石川高等学校
三宅 勇輝 神奈川県立 港北高等学校	コンピュータ室のない情報授業（タブレットを簡単に使用しての授業）			

公開授業

○小学校（横浜市立長津田第二小学校）

部会	学年・組	授業者	教科	単元・教材	ICT 活用
低	1年2組	池田 由美子	算数	かたちづくり	OHC
低	1年3組	駒井 春香	国語	1年3組だけのわかりやすいじどう車ずかんをつくろう 「じどう車くらべ」	デジタル教科書
低	2年1組	黒木 正人	国語	ドラえもんをこえるひみつ道ぐをクラスの友だちにせつ明しよう 「あったらいいな、こんなもの」	OHC
中	3年2組	江下 太樹	理科	ゴムのはたらき	パソコン (動画)
中	4年1組	徳田 達哉	国語	3年生が「このクラブいいな」と思うようなクラブ紹介リーフレットを作ろう 「クラブ活動リーフレットを作ろう」	パソコン・OHC デジタルカメラ
中	4年3組	加埜 洋子	国語 (書写)	「秋」「星」	OHC
高	5年1組	古市 真理	総合的な 学習	正しく使おう、インターネット	パソコン (動画)
高	5年2組	原田 幸太	理科	流れる水のはたらき	タブレット
高	6年1組	平岡 仁樹	理科	水溶液の性質	タブレット
高	6年2組	伊藤 雄太	理科	水溶液の性質	タブレット
個別 支援	5・6組	高橋・會田 矢崎・木村	国語	40さい おめでとう！第二小	タブレット

○中学校（横浜市立美しが丘中学校）

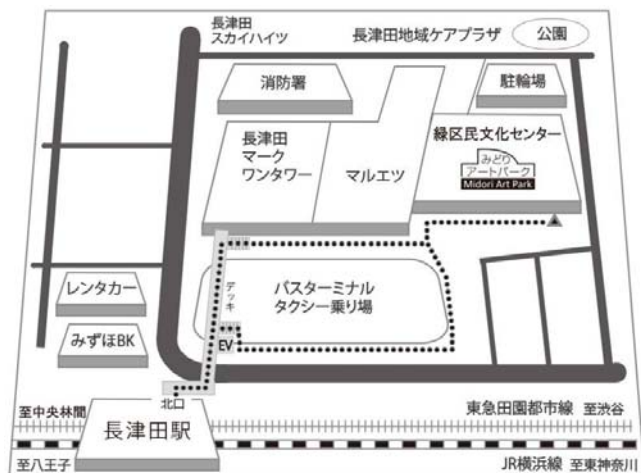
学年・組	授業者	教科	単元・教材	ICT 活用
2年1組	米澤 俊寿	理科	化学変化と原子・分子	タブレット
2年2組	手塚 裕貴	国語	話し合って考えを広げよう	タブレット
2年3組	鬼木 勝	社会	日本の諸地域 ～関東地方～	デジタル教科書 NHK 教材 DVD タブレット

会場へのアクセス

＜全体会会場・高等学校分科会会場＞

みどりアートパーク

JR 横浜線、東急田園都市線
長津田駅北口下車 徒歩 4 分



＜小学校分科会会場＞

横浜市立長津田第二小学校

JR 横浜線、東急田園都市線
長津田駅西口下車 徒歩 10 分



＜中学校分科会会場＞

横浜市立美しが丘中学校

東急田園都市線 たまプラーザ駅北口 下車徒歩 20 分

または 駅北口バスターミナルより東急バス「虹が丘営業所」行 「美しが丘3丁目」または「平津」下車徒歩6分



豊かな心と確かな学びを育む視聴覚機器の活用 ～ワイヤレス実物投影機を使った授業実践～

1 発表のねらい

近年、学校現場へのICT機器の整備が進む中、整備状況や授業での活用場面は、学校や教師によって違いがある。今回は、ワイヤレス実物投影機を使った授業実践を報告することにより、その普及に努めたい。

2 実践、活動の概要

横須賀市では、指導の目標として「確かな学力」の育成を掲げている。基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の育成を目指すには、授業でのICT機器の活用が、一つの手段として考えられる。また、ICT機器の活用場面が広がれば、以下のような効果が期待できる。

- ①指示・説明が分かる、課題が分かる、方法が分かる。
- ②児童の参加意識と、主体的に学ぶ意欲を高めることができる。
- ③それにより学習内容が分かる。
- ④ワイヤレス実物投影機を使うことにより、①～③の効果をさらに高めることができる。

※使用した機器は、以下の通りである。

- ・ワイヤレス実物投影機（エルモ MO-1w）
- ・プロジェクター（エプソン EB-485WT）
- ・ワイヤレスレシーバー（エルモ VPR-2）
- ・モバイルバッテリー（LE-VBT136P）
- ・HDMI ケーブル

3 実践の具体例

ここでは、ワイヤレス実物投影機を活用した授業実践を具体例として挙げる。

【一年生 算数「かたち（2）」】

色板を使って、ずらしたり、回したり、裏返したりして、提示された形を作る活動である。

本来、考えを全体で共有するためには、自分の作った形を実物投影機の設置された場所まで持っていき、操作し、説明するという方法が多く用いられるが、ここではワイヤレス実物投影機を使用した。

説明する際に、前に出てくる必要がないので「それなら自分にも！」という気持ちが湧き、意欲的に自分の考えを説明したいという児童が増えた。また、説明中の他の児童の視線は、前のホワイトボードに集まっているので、見られているという緊張感もなく、説明に集中することができる。さらに、移動の際に自分の作ったものがバラバラになってしまうのを防ぐことができ、自分の考えをスムーズに説明することができる。

一方で聞く側の児童は、本来、説明している児童と映像の二つに注目してしまいがちだが、ワイヤレス実物投影機の場合、映像だけに集中することができるので、学習内容を理解しやすい。

以上のことから、児童の参加意識と、主体的に学ぶ意欲を高めることができた。

4 今後の取り組み

この取り組みを、児童が主体的に学ぶ意欲を高める手段の一つとして、少しでも多くの職員に紹介していきたい。また、本校には、ワイヤレス実物投影機が1台しか整備されていないので、その普及にも努めていきたい。

「歴史にドキリ」と動画クリップを活用したジグソー型学習

1 発表のねらい

今回は「歴史にドキリ」と動画クリップを活用した授業実践を行った。授業のどの場面で活用すると子どもたちにとって効果的な学習となるのか、単元のねらいや児童の実態に合わせた活用方法について提案させていただく。また、今回の授業ではジグソー型学習に取り組んだ。「歴史にドキリ」や動画クリップの放送教材とあわせて活用することの意義やポイントについても提案させていただきたい。

2 実践、活動の概要

6年の社会「天下統一への動き」の単元で実践を行った。本学級の児童は課題に対して意欲的に取り組むことができる一方で、必要な情報を抜き出したり、まとめることに苦手意識をもつ児童が見られる。また、調べた事柄を発表することへの苦手意識のある児童も多い。

そこで、1つの課題に対してグループの複数の児童で調べ学習に取り組むジグソー型学習を取り入れた。このとき1つの知識では解決できないが、様々な知識を部品のように組み合わせていくと解決できるような学習課題を設定することで、自分の調べた事柄を他のグループのメンバーに伝える必要性が生じる。そうすることで、発表に苦手意識のある児童も積極的に調べた事柄を伝えあうことができるのではないかと考えた。

また、グループで集めた情報を整理していくことで必要な情報を選択したり、まとめる力が身につくのではないかと考えた。

本時では、充実したジグソー型学習とするために重要となる「学習課題」を設定するために導入場面で2分間程度の短い動画クリップを活用した。また、本時のポイントとなる事柄を確認するために「歴史にドキリ」を活用した。

3 実践の具体例

「天下統一への動き」の豊臣秀吉の学習を本時で扱った。児童は前時まで、織田信長が天下統一に向けて取り組んできた様々な取り組みに関して調べ学習を行ってきた。

織田信長が天下統一に向けて楽市楽座やキリスト教の保護、安土城の築城など様々な取り組みを行ってきたにも関わらず天下統一を果たすことができなかったことを児童の言葉でまとめた。

本時の導入では、信長の取り組みや天下統一を果たすことができなかったことを確認した後で、豊臣秀吉が天下統一を果たしたことがわかる2分程度の短い動画クリップを視聴した。前時に信長に関する調べ学習に取り組んだ児童からは「信長があれだけ苦労してできなかった天下統一が、どうして秀吉にはできたの？」という疑問が自然にあらわれてきた。

児童からあらがった疑問が、本時の学習課題となり、グループでのジグソー型学習に取り組んだ。各グループにタブレットPC1台とそれぞれの児童が持っている教科書と資料集を準備し、「刀狩」「検地」「身分統制」の3つのテーマをグループで分担して調べ学習を行った。集めた情報をグループで共有し、簡潔にまとめたものを全体で発表する活動を行った。

本時の最後には、児童がまとめた事柄が正しい情報なのか確かめるために「歴史にドキリ」の「豊臣秀吉」の回を視聴した。一人ひとりが主体的に豊臣秀吉の情報を集めていたことで、熱心に番組を視聴する姿が見られた。

4 今後の取り組み

放送教材を授業の中で使用する場面とねらいを明確にすることで、児童の理解がより確かなものになると感じた。今後は社会科だけでなく、様々な教科の学習で活用していけるようにしたい。

神奈川県相模原市の情報モラル教育の実践 ー『情報モラルハンドブック』を中心とした情報モラル教育の在り方ー

1 発表のねらい

児童を取り巻く環境が複雑化し、情報の発信、受信が可能な機器も多様化している。このような情報環境の中で、児童が安心安全に生活できるようにするためにも情報モラル教育の必要性は高まってきている。しかし、情報モラル教育は難しい、必要性は感じるがどうして良いかわからないと考えている教員も多くいる現状もある。

その現状を踏まえ、相模原市では教員が誰でも容易に情報モラル教育が行えるように『情報モラルハンドブック』を作成し、平成25年度に市内全小中学校に配布した。相模原市小中学校視聴覚教育研究会（以下、相視研）メディアリテラシー教育研究部では、情報モラルハンドブックを中心に、情報モラル教育の在り方について考え、様々な実践に取り組み、研究を進めている。

2 実践、活動の概要

（1）研究内容

- ①『情報モラルハンドブック』相模原プランの弾力的な活用方法を探る。
- ②情報モラルハンドブック以外の実践を持ち寄り、より児童の実態に合った情報モラル教育の在り方を考える。

◇『情報モラルハンドブック』

相模原市では学習指導要領に対応した「情報モラル相模原プラン」を作成した。『情報モラルハンドブック』（以下ハンドブック）は相模原プランに併せて、道徳の授業で扱う「心をたがやすページ」、学級指導や教科領域等で扱う「知識を身に付けるページ」で構成されている。「心をたがやすページ」には広島県教科用図書販売株式会社で作成している『事例で学ぶNetモラル』の映像資料を読み物教材として掲載している。

また、教員用の解説書には「心をたがやすページ」の指導案やワークシート、情報モラルに関する資料集が掲載されている。

「心をたがやすページ」で利用できる発問画像、映像資料などをまとめたものを、「授業用パッケージ」として学校のコンテンツサーバに格納しており、教室で情報モラル教育の授業を行うことができる。

I. 研究授業、協議

児童の実態に合わせ相模原プランを弾力的に活用できないかという視点で研究を行った。

小学校5年生を対象に相模原プランの小学校6年生の内容について研究授業、協議を行った。

研究授業では、自分たちの経験をふり振り返りながら、情報をどうやって得ているのか、情報の信憑性について考える展開となっており、児童も身近なことに置き換えながら考えることができた。

研究協議では、発信側と受信側の責任についてどう考えていくのか、映像資料の扱いについてなど授業の内容についての意見や、情報モラル教育について道徳で扱うことの難しさや教科を超えて扱うことの大切さなど、情報モラル教育の在り方についての意見などもあった。

II. 情報交換

『ハンドブック』や『ハンドブック』以外の教材・教具を用いた授業について情報交換を行った。

- ・道徳としてのねらいをしっかりと意識して授業展開を考えていく必要がある。
- ・1時間の道徳の時間でたくさんのことを扱うのではなく、合科的に情報モラル教育を行えるように、計画を立てていくことも重要である。
- ・ケータイやスマートフォンを所持する年齢も低年齢化している実態があるので、身近なネットワークを意識した情報モラル教育が必要となる。

3 成果

『情報モラルハンドブック』『解説書』が配布されたことで、情報モラル週間などを設定する学校が増えるなど、相模原市の情報モラル教育に対する取り組みは広がりを見せている。その中で『ハンドブック』や『授業パッケージ』は、情報モラル教育の指導経験が少ない教職員にとって、指導案やワークシートが掲載されていたり、映像資料や発問が手軽に活用できたり、教材研究の一助となっている。

児童の実態に合わせて『相模原プラン』を弾力的に活用できたことは、さらなる情報モラル教育の推進につながっていくと考える。

4 今後の課題と取り組み

児童を取り巻く情報環境は今後さらに複雑化していくであろう。その中で情報モラル教育の必要性や重要性は今後さらに増してくることが予想される。

これからの情報モラル教育の在り方を考えていく中で『ハンドブック』の存在は一つの柱になっていくと考えられる。児童の実態をしっかりと捉え、児童の実態や必要性に応じた指導を行っていくことが大切である。

中学校理科における学校放送番組を利用した授業実践報告 ～NHK for school の有用性について～

1 発表のねらい

平成27年度全国学力状況調査（中学校理科）の報告では、指導改善のポイントとして日常生活や社会の特定の場面において、理科で学習した知識・技能を活用できるようにするということや、自然の事物・現象から問題を見出し、適切に課題づくりができるようにすることなどが挙げられていた。本校では日常生活と授業の関連性を強くすることを意識し、授業の改善を目指した。本発表ではこれらの取り組みの中でも、学校放送番組（NHK for school）を利用した実践について報告する。

2 実践・活動の概要

学校放送番組（NHK for school）の映像の有用性として次のことが挙げられる。

長期的な観察の時間を短縮することができる。

遠隔地や限られた時間における事象を見せることができる。

指導のねらいに応じた自然の事物・現象を提示することができる。

粒子概念を必要とする事象について可視化することができる。

これらの利点を活かし、理科で学習した知識・技能に関連した自然の事物・現象を提示し、課題づくりをさせるようにした。そして、自然の事物・現象について考える場面を設けた。

3 実践の具体例

① 自然の事物・現象を利用した課題設定

使用した映像：NHK for school クリップ梅干しと酸性
キーワード：ウメボシ ウメズ サンセイ

【実践】

まず、授業の始めに梅干しを漬ける映像を見せる。この映像のなかでは、ウメを漬ける際にあえてシソの葉をいれずに塩漬けし、うめ酢を作るようにしている。うめ酢ができた時点で、シソの葉から色素を取り出したものを作る。この時シソの葉の色素は紫色だが、これにうめ酢を加えると紫色の液体が赤色に変化する様子がみられる。

次に、この映像をみてもった疑問について話し合い、『なぜシソの葉の色素はうめ酢によって色が変化したのか調べる』という課題を設定させた。

【生徒の様子】

映像をみていた生徒から「うめは赤色じゃないの？みどりのの？」「ウメからあんなに水が出るんだ」という声があった。そして、シソの葉の色の変化に驚く生徒の姿がみられた。日常生活の中で口にしている梅干しだが、どのようにして作られているのかを知らない生徒が多いようであった。

課題を設定する際には、指導の狙いに応じた事物・現象に留意することが大切である。この映像ではただ梅干しを漬けるのではなく、うめ酢を作る過程と、シソの葉の色が変化する過程に分けて梅干しを作っている。そのため、生徒の疑問や見いだす問題が自然としぼられ、指導の狙いにせまるものとなった。

4 今後の取り組み

今回の実践をとおして、学校放送番組（NHK for school）を利用すると、時や場所を選ばずに自然の事物・現象を扱うことができるということに特に利便性を感じた。昨年度、気象の授業で、風向計を作成したものの、風が吹かずに授業で使うことができなかったという経験をしたが、気象に関する授業では学校放送番組（NHK for school）の映像が活かされるのではないかと考えている。今後の実践の中で効果的な利用方法を検討していきたい。

中学校社会科におけるICT機器を用いた授業改善の研究

1 発表のねらい

本研究では、中学校社会科における授業にICT機器を取り入れることで生徒の学習活動を支援し、社会的事象に対する興味・関心を高め、多面的・多角的な思考を育む授業づくりをねらいとする。

近年の社会は、情報化の進展に伴い急激な変化をしている。この変化の中で将来を担う子どもに求められるのは、必要な情報を主体的に収集・判断・処理・編集・加工・表現・発信できる能力であると考え。中学校社会科においては三分野の中で様々な社会的事象を取り上げる。社会的事象は見方によっては多様な受け止め方や解釈ができる。本研究ではここに着目し、適切な資料を収集し、判断、処理し、活用することで多面的・多角的な思考を養い、公正に判断する態度を育みたいと考える。また、生徒自身が互いに知恵を寄せ集め、事象の背景や関連性、さらには因果関係に迫る活動を展開させることによって、社会認識は深まり、多面的・多角的な思考が養われると考える。

平成23年に文部科学省から発表された『教育の情報化ビジョン』では、分かりやすく深まる授業の実現のためにICT機器を活用することが求められている。現在、所属校においても社会科のみならず、理科や英語科、美術科などの教科でICT機器を取り入れた授業が行われている。それらの教科における授業でのICT機器の活用法としては動画や写真を見せることや、音楽を聴かせることなどを通して、生徒の興味・関心を高める目的とするものであり、思考力、表現力を高めることを主とした活用は容易には実践されていないのが実情である。しかし、ICT機器においては単に動画や写真を生徒に見せるだけに限らず、情報や見方、考え方等の共有化をはじめ説明などの表現活動を支援する利用法もあると考える。

そこで本研究では、中学校社会科において、生徒の多面的・多角的な思考を養うことを目的とした授業内でのICT機器の活用法をねらいとして設定した。研究の方法として、中学校社会科における3分野の授業それぞれで、思考力、表現力を養うことを目的としてICT機器を使用した授業を実践していく。

2 実践、活動の概要

分野	学年	単元	使用した機器
地理	1年	わたしたちの地球と世界の地域構成	ipad(1台) プロジェクター
歴史	2年	産業の発達と幕府政治の動き	ipad(10台)
公民	3年	価格の動きと金融	ipad(1台) プロジェクター

①地理的分野

ipadに予め取り込んだPowerPointのデータを起動させ、プロジェクターでホワイトボードに投影する。ホワイトボードは黒板よりも鮮明に映り、尚且つマーカーペンで書き込むことも可能であるため、生徒の意見や、キーワード、国や場所の位置の確認など、情報や考えの共有化を図ることができた。

②歴史的分野

次頁に詳細を記載。

③公民的分野

活用方法は地理的分野と同じであるが、話し合い活動で発表された意見を書き込むことの、資料やグラフを提示して、注目して欲しいポイントを生徒自身に書き込ませながら説明する活動を行った。

3 実践の具体例

①単元名 「新しい学問と化政文化」

(2)単元の概要

本単元は、幕府政治の失敗や天災や飢饉などの社会的変動が大きい時期に、庶民が担い手となった化政文化が誕生した経緯を学習する。化政文化を代表する作品である「浮世絵」を取り上げ、当時の社会的背景や「浮世絵」の題材となったものなどから、化政文化が誕生した経緯を多面的・多角的に考察させる。

(3)授業で用いた機器及びアプリケーション

【機器】

Oipad 10台

【アプリケーション】

Okeynote(プレゼンテーションソフト)

Oお江戸タイム

Oみらいスクールステーション

(4)授業の実践

【導入】

学習内容	機器の活用
O化政文化で描かれた絵画の確認。	Oipadで化政文化に描かれた浮世絵をテレビに映す。

ipadのプレゼンテーション用アプリケーション「keynote」で浮世絵を3枚テレビに提示する。但し、スライドが変わることで見ることができなくなってしまう難点もあるため、授業の核となる資料に関してはプリントアウトして黒板に掲示する。

【展開】

学習内容	機器の活用
O「黒代勝覧」から分かる、江戸時代の人々の生活を確認。	O「お江戸タイム」で江戸時代の人々の生活を確認させる。
O浮世絵が描かれた経緯とその願いを考える。	O「みらいスクールステーション」で資料を配付し、グループ別に作業させる。

「黒代勝覧」は全長12mに及び絵巻物である。江戸時代の日本橋付近の庶民の様子を描いたものであり、庶民の生活が生き生きと描写されている。「お江戸タイム」は「黒代勝覧」を扱ったipadのアプリケーションであり、拡大機能を使ってさらに細部まで見ることが可能である。また、解説もついているため当時の生活の様子を理解させることに活用した。

「みらいスクールステーション」はipadなどの親機に予め取り込んだ資料や課題を生徒用子機に電子ベースで配布でき、生徒は資料や課題を編集することができるアプリケーションである。また、親機では生徒用子機の作業を確認することができ、テレビ画面に最大2枚まで資料を同時に映すこともできる。本授業では、「打ちこわしと百姓一揆の件数」を年代別に表したグラフに、浮世絵が描かれた時期を予想してチェックをつけさせ、生徒同士の考えを比較させる活動や、数枚の資料をスライドさせながら、浮世絵が誕生した経緯をプレゼンテーション形式で説明させる活動を行った。

4 今後の取り組み

ICT機器はプレゼンテーション用アプリケーションや、「みらいスクールステーション」のようなアプリケーションを用い、考えの共有化や比較を行うことで、生徒の多面的・多角的な思考を養う可能性を見出すことができた。

しかし、作業の過程や思考の過程を「記録」に残すことができないという点が課題である。板書では「記録」として1時間の授業における思考の過程を残すことができる。それ故、ICT機器を使用することに拘るのではなく、板書とICT機器をバランスよく使用することが今後の取り組みとして必要になると考える。

アンケートシステムを利用したリアルタイムで行う授業の振り返り

1 発表のねらい

今回の授業は、ビッグデータの時代と言われる現代に、ますます重要になっていく、統計データを読み取る力をつけさせたいという狙いから設計した。統計データ（グラフ）を読み取る時に、陥りやすい間違いとして（またデータの作成者が意図的に誤解させるものとして）、相関関係を因果関係と誤解する、というものがある。そのような誤解を少しでも抑えて、グラフを読み取る力をつけてほしいと思い、授業の目的に設定した。

もう一つの大きな狙いは、アンケートシステムを利用して、授業前と授業後の生徒の認識の変化をリアルタイムに把握することにある。生徒の認識が授業前と授業後でどのように変化したのか、アンケートシステムを利用して数値として把握することにより、授業の成果を測れるとともに、統計データの重要性や読み取りの難しさへの認識を深めることができるようになる、ことをねらいとしている。

2 実践、活動の概要

利用したアンケートシステムは、メディア教育開発センターが公開している REAS (リアルタイム評価支援システム) である。このアンケートシステムは、調査票をユーザーが WEB 上で作成することができ、WEB 経由でアンケートを収集することができる。収集したデータは、CSV 形式でダウンロードできるため、容易に集計・加工することができる。回答画面も容易なため、授業内でアンケートをとり、同一授業内で教員が集計して生徒に提示することが可能である。

授業の題材は、次のように選定した。文部科学省マナビックンの統計コーナーにある「朝食を食べることとテストの結果を比べてみよう。」というリーフレットも、因果関係と相関関係の誤解を招く可能性があるグラフである。朝食を食べるとテストの点数が上がる、と読み取れかねないグラフとなっている。そこで、朝食とテストのグラフの隠れた原因を探す、という課題を設定した。生徒がそのような発想をするために、授業のステップを次のように設計した。

ステップ1. 「朝食とテスト」のグラフを見せ、どれくらい信用できると思うか、REAS で回答させる

ステップ2. 「因果関係があるように見えるが、明らかに」と分かるグラフを示し、原因を誤解させるグラフがあることを理解させる

ステップ3. 因果関係を誤解する代表的なパターンを理解させ、真の原因を探す練習をする。代表的なパターン

として、「偶然」「原因と結果が逆」「真の原因が隠れているもの」の3つを授業することにした。

ステップ4. 朝食とテストのグラフは「真の原因が隠れている」可能性があることを示し、真の原因を探す
ステップ5. 再度、「朝食とテスト」の信用度を、REAS で回答させる

一つ一つのステップを生徒に自力でクリアさせるため、自力ではなかなか思いつのが難しいステップについては、グループディスカッション、ブレインストーミング、などの言語活動を取り入れた。

3 実践の具体例

授業冒頭の信用度は63%で、授業最後の信用度は67%でほぼ変化がなかった。授業の趣旨からすると、信頼度が下がってほしい所ではあったが、そうはならなかった。しかし、一人一人の変化に注目してみると、ほとんどの生徒が授業を通して評価を変化させていた。減らした生徒の理由を見ると、「朝食以外にも原因がある」といった、ほぼこちらの狙い通りの理解に到達していることがわかった。一方、信頼度が増えた生徒の理由を見ると、ステップ4の「真の原因を探す」活動が上手に行かず、「朝食のおかげでテストの成績が良くなる理由」を頑張って探した班に所属した生徒が、信頼度を増やしていることがわかった。

「これからグラフを見る時に何に注意するか」を聞いた質問の回答を見ると、「グラフを見ただけで判断しない」「一つの情報だけを頼りにするのをやる」といった反応が寄せられており、少なくともグラフの見た目通りではないかも知れない、ということは伝えられたのではと考えている。

4 今後の取り組み

今回、象徴的だったのは数値自体にほとんど変化がないが、生徒の理解には大きな変化があったことである。数値を集計するだけだと、数値に表れない変化を捉えられないため、何を数値にし、何を記述で集計するのかよく検討する必要がある。また、他の授業についても、何を数値化して集計するのか思いつのは容易ではないため、時間をかけて取り組んで行く必要がある。

参考資料

文部科学省 マナビックンの統計コーナー

http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/286794/www.mext.go.jp/b_menu/toukei/manabee/index.htm

コンピューター室のない情報の授業 ～タブレットを簡単に使用しての授業～

1 発表のねらい

本校は今年度耐震工事のため、特別教室棟が使用できず、プレハブ棟の普通教室で1人1台のPCが用意できない状態での情報の授業を1学期間行った。タブレットPCをグループに1台ずつ使用し、課題に取り組みさせた結果を報告する。また、本校全体で「アクティブラーニング型授業」の実践を進めており、情報ではグループワークを中心に課題を解決する授業を行っている。その中で自律的に学習に取り組む力（本校では自学力と呼ぶ）の育成について報告したい。さらに、タブレットPCの特性を生かし、少ない授業回数で簡単に使用する方法、生徒の主体的な学習の様子についても報告し、今後の検討に役立てたいと考えた。

2 実践活動の概要

PC教室で例年1学期に行っている授業内容を変更し、普通教室での授業構成を考えた。講義形式の授業を挟みながらグループワークを中心とし、各時間における課題に対して結論を出していく作業を繰り返し行った。例えば、紙媒体の広告を持ち寄りながら、広告の特徴について考える課題。同じ事件を、同日の違う新聞社の記事を比較しながらメディアの特性について考える課題などである。これらの授業は、ワークシートを囲みながら授業時間の大部分を、話し合い活動を中心とした生徒主体の授業が行えた。また、タブレットPCを使用した授業では、どのような項目（個人情報）を用意すればシチュエーションにあったプロフィールカードができるか考え、エクセルで制作する課題や、次に紹介するプレゼンテーションに関する課題を2つ設定した。このようにして1時間単位で内容を区切り、少ない授業回数で完結させる課題が設定できた。また、普通教室で行う情報の授業課題でも実習を中心とすることができ、生徒主体の授業を構成することができた。

3 実践の具体例

1学期行った授業内容の中で、グループワークによるプレゼンテーションを2つ紹介する。内容とねらいは次の通りである。

①「写真のみを用いた学校紹介のプレゼン」

メディアの特性を理解し、視覚情報のみで内容を伝える方法を習得する。（3時間）

②「文字のみを用いた問題解決に関するプレゼン」

問題解決の方法を習得するとともに、漠然とした課題に対して結論を出す。（4時間）

上記の内容は2学期の学習の中心となる、「家庭科ホームプロジェクト」に関するプレゼンにつなげるねらいがある。これは個人ですべての生徒に実施する課題であり、家庭科のレポートの内容を精査しながらスライドを制作し、1人3分で行う。2学期行う個人のプレゼンで、発表の力をつけさせる前に、グループで考えをまとめ、伝える方法を習得させようと設定した。また、「写真」「文字」のみで情報を絞った中で伝える内容を考えさせることをポイントとした。

授業実践の結果は1学期初めから、グループワークを中心に授業構成を組んだことから、自然と話し合いになる関係ができあがった状態でプレゼンの課題を行うことができ、発表までスムーズに行えた。また、結論を一言で端的に表すことも繰り返し行ったこともあり、プレゼンの課題でも実行することができた。



4 今後の取り組み

次年度についてはPC教室があっても、グループワークを中心に課題を解決させる内容を考えたい。また、タブレットPCを使用する課題については、取り扱う題材について生徒に合わせた内容を検討していきたい。

各種大会のあゆみ

神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会のあゆみ

回	開催年月日	開催地	大会主題	分科会
1 神放協第8回 県学視協第1回 高視研第23回	S55.11.24	川 崎	放送・視聴覚教育で育てる、確かな学力と豊かな情操	幼稚園 1: 小学校 13: 国語・社会 2・算数・理科 2・音楽・ 図工・家庭科・道徳・特殊・ 校内放送 中学校 3: 機器利用・放送番組利用・ 校内放送
2 神放協第9回 県学視協第2回 県視協第14回 高視研第24回	S58.6.1	藤 沢	放送及び視聴覚教材・機器等を積極的に活用し学習の質的拡充をはかり生涯教育の実現をめざそう	幼稚園 2: 小学校 11: 国語・社会・算数・理科・音楽・ 図工・家庭科・体育・道徳・ 校内放送・特活 中学校 11: 国語・社会・数学・理科・音楽・ 美術・保体・技術家庭科・英語・ 道徳・校内放送 高等学校 3:現代国語・数学・理科・英語 養護 1: 社会体育 4:AVL・学級講座・社会教育・ 放送利用
3 神放協第10回 県学視協第3回 高視研第25回	S59.11.8 ～9	横 浜	自ら学ぶことのできる力の育成をめざし、学習の最適化をはかるなかで視聴覚・放送教育の確かな活用をめざす	幼稚園 2: 小学校 17: 国語・社会 2・算数 2・理科 2・ 家庭科・図工 2・体育・特活・ 道徳・特殊教育・自作教育・ 校内放送・放送利用 中学校 14: 国語・社会・数学・理科・音楽・ 美術・保体・技術家庭科・英語・ 道徳・校内放送・ハ・リソ 高等学校 3:映像放送教育部門・ 学習情報研究部門・ 施設設備部門
4 神放協第11回 県学視協第4回 高視研第26回	S60.11.7 ～8	川 崎	情報化社会に生きる子どもたちのためにわかる授業、楽しい授業をめざして視聴覚・放送教育を推進しよう	幼稚園 2: 放送・視聴覚教材 小学校 17: 国語・社会 2・算数 2・理科 2・ 家庭科・図工音楽・特活・道徳・ 特殊・AN・PC2 中学校 9: 機器・放送(国語・社会・道徳・ 特活)、 機器(音楽・美術・保体・ 技術家庭科)、 LAN(英語・教科指導)、 PC(教科指導) 校内放送 高等学校 3:OHP を見直そう・自主教材・ VTRハ・リソの活用
5 県視協第15回 神放協第12回 県学視協第5回 高視研第27回	S61.10.22	小田原	主体的に学ぶ力や多面的に考える力の育成をめざし、視聴覚・放送教材の積極的活用を進めよう	幼稚園 2: 小学校 7:国語・社会・算数・図工・特殊・ 道徳・特活 中学校 9:国語・社会・数学・理科・技術家庭・ 英語・特活 高等学校 3:OHP・スライド・VTR 特殊学校 1: 社会教育 3:視聴覚ライブラリー・学級講座・ 放送利用
6 神放協第13回 県学視協第6回	S62.8.4	横 浜	教育のニューメディア時代の対応を考える	基調講演 1: 講座 1～4:

7 神放協第 14 回 県学視協第 7 回 高視研第 29 回	S63.10.22	横 浜	自ら学び行動できる力の育成をめざし、生き生きとした学習指導の組織化を図る中で、視聴覚・放送教材の活用を積極的に進めよう	幼稚園 1: バズセッション 小学校 10: 国語・社会・算数・理科・音楽・ 図工・道徳放送・パソコン・ 自主教材 中学校 8: 社会・数学・理科・技術家庭・英語 高等学校 2: パネルディスカッション
8 県視協第 16 回 神放協第 15 回 県学視協第 8 回 高視研第 30 回	H1.11.17	県 央 海 老 名 座 間 綾 瀬	個性と創造力のある自己教育力の育成をめざし、視聴覚・放送教材及び教育機器の多角的な活用を進めよう	幼稚園 2: 小学校 7: 国語・社会・算数・理科・音楽・ 図工・道徳放送・パソコン・自主教材 中学校 6: 国語・社会・数学・理科・技術家庭科・英語 小中共通 3: パソコン・校内放送・障害児教育 高等学校 2: パネルディスカッション 特殊諸学校 1: 社会教育 3: 視聴覚ライブラリー・学級講座・ 放送教育
9 神放協第 16 回 県学視協第 9 回 高視研第 31 回	H2.11.13	川 崎	豊かな心と個性の伸長をはかる効果的な視聴覚・放送教材及び教育機器の活用を進めよう	幼稚園 1: 小学校 13: 国語・社会・算数・理科・生活科・ 音楽・図工・体育・家庭科・道徳・ 校内放送・パソコン・映像教材 中学校 14: 国語・社会・数学・理科・音楽・ 美術・保健体育・技術家庭科・ 英語・道徳
10 県視協第 17 回 神放協第 17 回 県学視協第 10 回 高視研第 33 回	H4.11.10 ～11	横須賀 三 浦	心の豊かさを求める生涯教育社会の創造に向けて学社連携による放送・視聴覚を再確認しよう	幼稚園 1: 遊びの中の機器利用 小学校 5: 機器利用・放送番組利用・ 教材教具の開発と収集・管理・ ニューメディアと情報 高等学校 1: 自主活動を育てる 養護学校 1: 障害を補う機器活用 社会教育 2: 学習情報提供・ 映像メディアの活用 学社共通 1: 学社連携の視聴覚教材の利用
11 神放協第 18 回 県学視協第 11 回 高視研第 34 回	H5.11.5	横 浜	自ら学びつづけ、自らを高めようとする力の育成をめざし、視聴覚・放送教材の積極的な活用を進めよう	幼稚園 1: 視聴覚教材を活用した 幼児の自主的な活動 小学校 4: 視聴覚教材・機器の活用と 学習指導・ 放送教材の活用と学習指導・ 学習場面での体験を通じた 情報活用能力の育成・ 校内放送による体験を通じた 情報活用能力の育成 中学校 1: シンポジウム 「視聴覚・放送の未来を見つめる」 高等学校 1: パネルディスカッション
12 神放協第 19 回 県学視協第 12 回 高視研第 35 回	H6.11.2	川 崎	未来社会の担い手としての資質・能力を育てるために、視聴覚・放送教材の積極的な活用を進めよう	幼稚園 1: 遊びとしてのコンピュータ 小学校 4: 視聴覚教材・機器活用・ 放送教材活用・情報活用・ 校内放送 中学校 3: 視聴覚教材・機器利用・ 放送教材活用・情報活用 高等学校 1: 研究協議 「21 世紀に向けた 書道教育の研究」 講演 「新しい学力観と視聴覚・放送教育」

13 県視協第 18 回 神放協第 20 回 県学視協第 13 回 高視研第 36 回	H7.10.20	秦 野	生涯学習の時代を迎え、自己学習力を育て、社会の変化に対応しうる力を育成するための、視聴覚・放送教育のあり方を探ろう	幼稚園 1: 保育における効果的な視聴覚・放送教育資料の提供について考えよう 小学校 4: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用・校内放送 中学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 高等学校 1: 社会教育 2: 講演「映像著作権について」パネル「社会教育における視聴覚教育」
14 神放協第 21 回 県学視協第 14 回 高視研第 37 回	H9.11.17	横 浜	豊かな個性をもち自ら学び続ける力を育てるために視聴覚・放送教材を積極的に活用しよう	幼稚園 1: 小学校 5: 放送・ビデオ教材活用・教材・教育機器教材製作・情報教育・校内放送 中学校 1: 実践報告「インターネットと学校教育」テレビ会議による学校間交流 高等学校 1: 研究協議「映像世界史の実践-新しい放送システムと高校の視聴覚教育-」
15 県視協第 19 回 神放協第 22 回 県学視協第 15 回 高視研第 38 回	H11.8.20	厚 木	生涯学習社会の中で、自ら学び、調べ、楽しむ力を育むため、視聴覚・放送メディアの有効かつ積極的な活用をめざす	幼稚園 1: 思いやりの心を育て、生き生きと活動する 小学校 4: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用・校内放送 中学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 高等学校 1: 総合科目における発表技術の習得に向けて
16 神放協第 23 回 県学視協第 16 回 高視研第 40 回	H13.8.2	川 崎	21 世紀を自分らしく輝き、心豊かに生きる子どもの育成をめざして～教育メディアの主體的な活用を通して	幼稚園 1: 幼児の生活と視聴覚教材 小学校 4: 放送映像活用、情報活用、マルチメディア活用、ネットワーク活用 中学校 4: 探求を深める情報機器利用①② 表現を深める情報機器利用①② 高等学校 1: 環境教育・情報メディア活用
17 県視協第 20 回 神放協第 24 回 県学視協第 17 回 高視研第 42 回	H14.8.2	鎌 倉	自ら学び、学ぶ楽しさを求める中で、放送・視聴覚メディアの主體的な活用をめざす	幼稚園 1: 視聴覚教材の活用 小学校 4: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用・校内放送 中学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 社会教育 1: 視聴覚資料と著作権
18 神放協第 25 回 県学視協第 18 回 高視研第 43 回	H15.11.14	横 浜	創造性に富み、たくましく、個性豊かな子どもを育てるために、情報活用の実践力を高める視聴覚・放送・情報教育を積極的に推進しよう	小学校 4: 中学校 高等学校
19 県視協第 21 回 神放協第 26 回 県学視協第 19 回 高視研第 45 回	H17.11.11	南足柄	心豊かにたくましく生きる力を育むため、情報・放送メディアの活用をめざす	幼稚園 1: 視聴覚教材の活用 小学校 4: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用・校内放送 中学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 高等学校 1: Web コンテンツと新しい情報機器の有効活用 社会教育 1: 地域映像のデジタル化

20 神放協第 27 回 県学視協第 20 回 高視研第 46 回	H18.11.10	川 崎	さまざまなメディアを活用し、心豊かな未来を拓く人間の育成をめざして	幼稚園 1: 視聴覚を通しての幼稚園教育 小学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 中学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 高等学校 1:
21 県視協第 22 回 神放協第 28 回 県学視協第 21 回 高視研第 48 回	H20.11.14	県 央 相模原	創造性豊かな情報活用能力の育成をめざして	小学校 4: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 中学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 高等学校 2:「携帯情報機器の問題点と可能性」 「総合選択科目映画研究の 10 年」 社会教育 2:「フィルムアーカイブ～フィルムの資料的価値と魅力について」「貴重な映像資産の継承～NHK アーカイブスの役割と取り組み」
22 神放協第 29 回 県学視協第 22 回 高視研第 49 回	H21.11.20	川 崎	さまざまなメディアを活用し、心豊かに未来を拓く人間の育成をめざして	小学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 中学校 3: 視聴覚教材・機器活用・放送教材活用・情報活用 高等学校 1:「アナログの復権」
23 神放協第 30 回 県学視協第 23 回 高視研第 50 回	H22.11.5	横 浜	つながる・学び・どこまでも～教育メディアと共に開く豊かな学びを求めて～	幼稚園 1: 小学校 12: 視聴覚 4、放送 4、情報 4 中学校 6: 視聴覚 2、放送 2、情報 2 高等学校 2:「総合学校合同 Web について」 「視聴覚・情報機器の利用の可能性」
24 県視協第 23 回 神放協第 31 回 県学視協第 24 回 高視研第 51 回	H23.11.11	横須賀	確かな学び、豊かな心を育む教育メディアの活用を図る	小学校 3: 視聴覚教材、放送教材、情報活用 中学校 3: 視聴覚教材、放送教材、情報活用 高等学校 1:メディアリテラシー 社会教育 1:視聴覚ライブラリー
25 神放協第 32 回 県学視協第 25 回 高視研第 53 回	H26.1.24	相模原	豊かな想像力と確かな学びを育む教育メディアの活用をめざして	小学校 3: 視聴覚教材、放送教材、情報活用Ⅰ・Ⅱ 中学校 3: 視聴覚教材、放送教材、情報活用Ⅰ・Ⅱ 高等学校 1:情報機器活用
26 神放協第 33 回 県学視協第 26 回 高視研第 54 回	H26.11.21	川崎	自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして	幼稚園保育所 1: 放送教材 小学校 3: ICT 活用、放送番組活用 中学校 3: ICT 教材、放送番組活用 高等学校 1: ICT 活用 ※視聴覚教育総合全国大会＋放送教育研究会 全国大会会場（はるひ野小中学校、高津高等学校分科会）に参加
27 神放協第 34 回 県学視協第 26 回 高視研第 55 回	H27.11.20	横浜	見つめ、かかわり、高め、未来を生き抜く～豊かな学びの創造～	小学校 3: 視聴覚教育、放送教育、情報教育 中学校 2: 放送教育、ICT 活用 高等学校 1: 情報教育

県視協（県視連十県学視連）主催 神奈川県視聴覚教育研究大会のあゆみ

回	開催年月日	開催地	大会主題	分 科 会
1	S41.11.5	相模原	教育の近代化をめざし、視聴覚教材の特性を生かした効果的指導法はどのようにしたらよいか	小学校 5: 理科 2・社会 2・施設 中学校 3: 数学・英語・管理 社会教育 3: AVL・学習活動・家庭での利用
2	S42.11.17	三 浦	教育の現代化をめざし、視聴覚教材の特性を生かした効果的指導法はどのようにしたらよいか	小学校 5: 理科 2・社会 2・道徳 中学校 4: 特活・道徳・英語・教科 小中共通 1: 管理 学社共通 2: AVL 社会教育 2: 学級・講座・家庭のテレビ
3	S43.11.26	湯河原	教育の現代化をめざし、視聴覚教材の特性を生かした効果的指導法はどのようにしたらよいか	小学校 4: 理科・社会・体育・道徳 中学校 4: 数学・社会・理科・英語 小中共通 1: 施設管理(AVL) 社会教育 2: 成人教育・家庭教育とTV
4	S44.11.14	県 東 相模原	教育の現代化をめざし、視聴覚教材の特性を生かした効果的指導法はどのようにしたらよいか	小学校 4: 理科・社会・図工・道徳 中学校 4: 数学・理科・社会・英語 社会教育 1: 家庭教育学級
5	S45.11.27	横須賀	教育の現代化をめざし、視聴覚教材の特性を生かした効果的指導法はどのようにしたらよいか	小学校 6: 算数・理科・社会・図工・道徳・VTR 中学校 5: 理科・社会・英語・道徳・VTR 小中共通 3: 特殊教育 社会教育 3: 学習講座団体・社会教育施設・ 市民生活と情報 学社共通 2: 学校の博物館利用・AVL
6	S46.11.26	川 崎	情報社会における新しい教育をめざして	小学校 14: 国語・社会 3・理科 2・算数・音楽・ 図工・道徳・校内放送・映像と教育・家庭視聴・機 材選定 中学校 6: 理科・社会・英語・学活・校内放送・ OH 社会教育 5: 社会教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・産業教育・ AVL
8	S48.11.27	県 東 厚 木	未来の社会を創造する豊かな人間性と諸能力を養うために、視聴覚教材をどのように活用したらよいか	小学校 12: 国語・社会 3・算数・音楽・理科 3・図 工 中学校 4: 理科・社会・英語・特活 小中共通 3: 特殊教育・校内放送・機器・UHF 社会教育 3: 社会教育Ⅰ・Ⅱ・AVL
9	S49.11.12	茅ヶ崎	情報科社会に適應できる豊かな人間性と諸能力を養うためには、視聴覚教材の効果的活用法はいかにあるべきか	小学校 11: 国語・社会 3・算数 2・理科 2・音楽・ 図工・道徳 中学校 4: 理科・社会・英語・特活 小中共通 3: 地域・機器・自作教材 社会教育 1: AVL
10	S50.11.11	南足柄	豊かな人間性を高めるために視聴覚的方法の本質を考えよう	小学校 12: 国語・社会 3・算数・音楽・理科 3・ 図工・道徳・特殊 中学校 6: 国語・社会・数学・理科・音楽・英語 社会教育 2: AVL・学級講座
11	S51.11.17	大 和	教育の原点に立って視聴覚教育の本質を考えよう ーより確かな方法を求めてー	部会 11: 小学習指導・中学学習指導・テレビ学校放 送・校内放送・施設設備資料・自作 VTR・自作ス ライド・AVL・学級講座・小自作 TP・中自作 TP
12	S52.11.1	横須賀	教材、教具の活用とその効果を確かめよう	学校教育 8: 小学習指導・中学学習指導・ テレビ視聴・校内放送・小自作 TP・ 中自作 TP・自作 VTR・自作スライド
13	S55.5.27	厚 木	豊かな人間性を求めて視聴覚教材、教具の果たす役割と効果を見直そう	部会 3: 小学校・中学校・社会教育

※第 14 回から「神奈川県放送教育研究大会」との合同大会となる

神放協主催 神奈川県放送教育研究大会のあゆみ

回	開催年月日	開催地	大会主題	分 科 会
1	S51.1.20	川 崎	現代社会に生きる調和のとれた人間形成のための、放送の果たす役割と効果を明らかにしよう	幼稚園 4:番組Ⅰ・Ⅱ・VTR 使用・家庭視聴 小学校 19:国語 2・社会 5・算数・理科 3・ 音楽・道徳 3・校内放送 2・管理・家庭視聴 中学校 4:国語・社会・理科・校内放送 特殊教育 1: 高等学校 2:教科・教科外
2	S52.2.1	座 間	放送教育の現状、効果を明らかにしよう ～教育の近代化・多様化の現状を踏まえて～	幼稚園 1: 小学校 1: 中学校 1:
3	S52.10.27	横 浜	激動する社会に生きる創造的人間の育成をめざして、放送の教育特性を生かす発展的な学習指導のあり方を究明しよう	幼稚園 1:
	11.23			小学校 6:国語 1・理科・社会・体育・道徳・利用・VTR
	11.25			中学校 5:国語・社会・理科・技術家庭・校内放送 高等学校 2:理科・行事(スライド)
4	S53.11.28	横須賀	生涯にわたって学習できる人づくりをめざして、確かな学力と豊かな情操を養うため、放送の教育の役割を明らかにしよう	幼稚園 1: 幼小合同 1: 小学校 1: 中学校 1: 高等学校 1:
5	S54.11.28	川 崎	未来社会に対応する人づくりをめざして、確かな学力と豊かな情操を養うため、放送教育の役割と効果を明らかにしよう	幼稚園 2: 小学校 8:理科 3・社会 3・道徳・校内放送 中学校 4:理科・社会・英語・校内放送 高等学校 2:理科・教科外 家庭視聴 1:
6	S55.11.20 (第 31 回関 プロ放送大会)	横 浜	人間性を培い、自ら学びとる力の育成をめざして放送の特性を生かす学習のあり方を究明しよう	幼稚園 2: 小学校 13:国語・社会 3・理科 3・算数・音楽・道徳 2・校内放送・みどりの地球 中学校 11:国語・数学・理科・英語・社会・美術・音楽・道徳・校内放送・特活 特殊教育 1:生活訓練 家庭視聴 1:
7	S57.1.14	横 浜	第31 回関プロ放送大会の成果をふまえて、確かな学力と豊かな情操を養うため、放送教育の日常性をめざした研究と実践の方向性を明らかにしよう	幼稚園 1: 小学校 1: 中学校 1: 高等学校 1:

※第8回から「神奈川県視聴覚教育研究大会」との合同大会になる

神奈川県高等学校視聴覚教育研究大会のあゆみ

回	年度	会場校	会長校	備 考（テーマ）
	S34	横浜平沼	横浜平沼	結成大会
1	35	相原 逗子	浅野	相原高校放送教育研究発表会 逗子高校放送教育研究発表会
2	36	関東学院六浦	浅野	放送教育研修会（箱根） 関東学院六浦高校視聴覚研究発表会
3	37		横浜立野	全国高視協特別研究会を担当（湯河原）
4	38	横浜市立桜ヶ丘 県職員会館	横浜立野	放送教育横浜関プロ大会
5	39		横浜市立桜ヶ丘	
6	40	神奈川工業	横浜市立桜ヶ丘	神奈川工業高校放送教育研究発表会
7	41		横浜市立桜ヶ丘	
8	42	関東学院六浦 横浜市立商業 相模工大附属	横浜共立学園	関東学院六浦高校放送教育研究発表会 関東甲信越学校視聴覚教育研究大会 相模工大附属高校放送教育研究発表会
9	43		横浜共立学園	箱根特別研修会
10	44	横浜共立学園	小田原城内	10周年記念研究大会
11	45	向の岡工業	小田原城内	放送教育関プロ川崎大会
12	46	川崎市立商業	川崎市立商業	研究集会
13	47	横浜奥沢ビル	川崎市立商業	研究集会
14	48	市立横須賀	関東学院	研究集会
15	49	市立横浜工業	関東学院	合同全国大会
16	50	川崎市立商業	立野	放送教材を利用したロングホームルームの実践 ～授業に導入できる番組と活用～
17	51	相模工大附属	立野	放送教育の現状と効果を明らかにしよう
18	52	横浜教育文化センター	市立横須賀	創造性に富み、たくましく、個性豊かな子どもを育てるために、情報活用の実践力を高める視聴覚・放送・情報教育を積極的に推進しよう
19	53	市立横須賀	市立横須賀	生涯にわたって学習できる人づくりをめざして、確かな学力と豊かな情操を養うため放送教育の果たす役割を究明しよう
20	54	川崎市立商業	港南台	未来社会に対する人づくりをめざして、確かな学力と豊かな情操を養うため放送教育の果たす役割と効果を明らかにしよう
21	55	関東学院	港南台	生徒の理解力をより高めるために放送番組を用いてその効果を検討しよう
22	56	港南台	武相	関プロ大会などの成果を踏まえ、神高視研地区研究会の各種委員会の組織を強化し、研究と実践を高め視聴覚教育の日常化をめざすため、今後の取り組みの方向づけを明らかにする
23	57	柿生西	武相	生徒の確かな学力と豊かな人間性を養うために、放送視聴覚教育の果たす役割と効果を明らかにしよう
24	58	日大藤沢	豊田	生徒の確かな学力と豊かな人間性を養うために、放送視聴覚教育の果たす役割と効果を明らかにし、生涯学習への道をさぐる
25	59	横浜市立港商業	瀬谷	個に応じた学習、ゆとりある学校生活を生涯学習に発展させるよう視聴覚・放送教材の活用をすすめよう
26	60	住吉	横浜市立港商業	新時代の流れに対応した視聴覚教育
27	61	小田原城北工業	横浜市立東	確かな学力と豊かな人間性を養うための視聴覚・放送機器の利用は、どのように進めたらよいか
28	62	川崎市立商業	逗子	高校教育における新しい放送・視聴覚機器の導入と活用の

				方向をさぐろう
29	63	永谷	逗子	普通科高校におけるパソコンをめぐる諸問題
30	H1	海老名	逗子	確かな学力と豊かな人間性を養うための視聴覚・放送教育活動をどのように充実させたらよいか
31	2	川崎北	聖ヨゼフ学園	新しい時代に対応する教育活動を深めて生涯学習に発展させるために、視聴覚・放送教材および教育機器の活用を積極的に進めよう
32	3	県教育センター	聖ヨゼフ学園	県教育センター見学講演「戦後の教育思潮と視聴覚教育」
33	4	三崎水産 (放送関プロ)	大岡	情報化時代における豊かな心と自主的活動を育てるために、放送・視聴覚教材の効果的な活用を図ろう
34	5	横浜平沼	大岡	新しい時代を想像するため、自らを変容し続ける力を養う中で、放送・視聴覚教材の意欲的な活用を進めよう
35	6	川崎市立商業	横浜市立横浜商業	未来社会の担い手としての資質・能力を育てるために、視聴覚・放送教材の意欲的な活用を図ろう
36	7	大秦野	横浜市立横浜商業	普通科高校における情報教育をめぐる、視聴覚担当者としての仕事内容について
	8		柿生西	神放協大会とともに大会休止年
37	9	神奈川総合	新磯	豊かな個性を生かし、創造性を養うために、視聴覚・放送教材の効果的な利用を図ろう
38	10	大師	県立氷取沢	高度情報化社会の中で、自らが一人一人の良さや可能性をのばし、生きる力を育むための視聴覚教育を推進しよう
39	11	厚木市総合 福祉センター	川崎市立高津	生涯学習の中で、自らが学び、調べ、楽しむ力を育むため、視聴覚・放送メディアの有効かつ積極的な活用をめざす
40	12	大師	川崎市立商業	ビデオのノンリニア編集についての研修会
41	13	川崎市立高津 (放送関プロ)	厚木南	情報メディアを利用した情報選択能力や情報活用能力の育成の試みー「総合的な学習の時間」導入に向けてー
42	14	川崎市教育文化会館 (全総文祭)	厚木南	全国高校総合文化祭放送部門大会を実施し、研究大会は、休止
43	15	神奈川工業	横浜市立港	自ら学び情報を活用する力を育むために、情報メディアを積極的に活用しよう
44	16	川崎市立高津	横浜市立港	Web上の教育用コンテンツを用いた授業実践とコンテンツの紹介
45	17	南足柄女性センター	逗子	Webコンテンツと新しい情報機器の有効活用
46	18	川崎市麻生市民館	逗子	「教育の情報化」推進とメディアリテラシーを育成する試み
47	19	横浜市西公会堂	川崎市立高津	メディアリテラシー研修会
48	20	相模原市環境情報センター	川崎市立高津	創造性豊かな情報活用能力をめざして
49	21	川崎市中原市民館	厚木西	さまざまなメディアを活用し、心豊かに未来を拓く人間の育成をめざして
50	22	横浜平沼 (関プロ)	厚木西	「つながる・学び・どこまでも」 ～教育メディアと共に開く豊かな学びを求めて～
51	23	横須賀総合	厚木西	確かな学び、豊かな心を育む教育メディアの活用を図る
52	24	情報科学専門	鎌倉	・デジタルカメラで撮影した静止画の加工とパワーポイントとの連携 ・ビデオ動画の簡易編集と授業での活用方法について
53	25	神奈川総合産業	港北	アナログ+デジタル 良いところ取りのICT利活用のコツ ～これなら使える！使ってみよう！iPadとICT機器～
54	26	川崎市立高津	川崎市立高津	映像を表現する～映像制作を通じた表現力の育成～
55	27	みどりアートパーク	横浜市立サイエンスフロンティア	なるべく多くの（情報）機器を使った実践報告 コンピュータ室のない情報授業

役員名簿

平成27年度 神奈川県視聴覚・放送教育研究合同大会（横浜大会）

委員会役職	氏名	組織名	所属名	役職
大会会長	栗原 裕	県学視協会会長	横須賀市立野比中学校	校長
大会副会長	川口 潤一郎	神放協会会長	横浜市立名瀬中学校	校長
実行委員長	田中 公明	浜視連副会長	横浜市立森の台小学校	校長
実行副委員長	栗原 峰夫	県高視研会長	横浜サイエンスフロンティア高等学校	校長
実行委員	平岩真以子	NHK横浜放送局	NHK横浜放送局企画編成部	
実行委員	平野 成昭	県学視協理事	横浜市立希望ヶ丘小学校	校長
実行委員	横山 美明	県学視協理事	横浜市立上白根小学校	校長
実行委員	赤村 晋	県学視協理事	横浜市立上郷小学校	校長
実行委員	本多 靖	県学視協理事	横浜市立山田小学校	校長
実行委員	芳原 勝美	県学視協理事	横浜市立仏向小学校	校長
実行委員	宇佐美 公敏	県学視協理事	横浜市立茅ヶ崎台小学校	校長
実行委員	田屋 敏彦	県学視協理事	横浜市立茅ヶ崎東小学校	校長
実行委員	田中 芳夫	県学視協理事	横浜市立長津田第二小学校	校長
実行委員	岩崎 良之	県学視協理事	横浜市立杉田小学校	校長
実行委員	鈴木 国広	県学視協理事	横浜市立東戸塚小学校	校長
実行委員	狩野 久幸	県学視協常任理事	横浜市立洋光台第二中学校	校長
実行委員	則竹 常行	県学視連事務局	横須賀市立鷹取小学校	総括教諭
実行委員	横田 不二夫	川視協会会長	川崎市立久末小学校	校長
実行委員	佐藤 俊明	川視協事務局	川崎市立荻宿小学校	教諭
実行委員	宮内 裕之	相視研会長	相模原市立鹿島台小学校	校長
実行委員	山岸 佑	相視研事務局	相模原市立東林小学校	教諭
実行委員	三宅 勇輝	県高視研事務局	神奈川県立港北高等学校	教諭
実行委員	畠山 純一	県高視研幹事	神奈川県立横浜国際高等学校	教諭
実行委員	小林 正英	県高視研幹事	神奈川県立生田高等学校	教諭
実行委員	川又 弘明	県高視研幹事	神奈川県立新城高等学校	教諭
実行委員	海部 弘	県高視研幹事	神奈川県立元石川高等学校	教諭
実行委員	田中 和正	浜視連幹事	横浜市立富岡東中学校	教諭
実行委員	山村 泰弘	浜視連幹事	横浜市立小山台中学校	教諭
実行委員	伊吾田 政宗	浜視連幹事	横浜市立茅ヶ崎中学校	教諭
実行委員	熊野 リ力	浜視連幹事	横浜市立立原中学校	教諭
実行委員	角田 雄一	浜視連幹事	横浜市立領家中学校	教諭
実行委員	横山 裕孝	浜視連幹事	横浜市立西金沢中学校	教諭
実行委員	佐々木 武	浜視連幹事	横浜市立中山中学校	教諭
実行委員	飯田 慎也	浜視連幹事	横浜市立南が丘中学校	教諭
実行委員	大下 恵美	浜視連幹事	横浜市立金沢中学校	教諭
実行委員	金子 実	浜視連幹事	横浜市立杉田小学校	教諭
実行委員	吉田 圭一	浜視連幹事	横浜市立東汲沢小学校	主幹教諭
実行委員	諏訪 浩	浜視連幹事	横浜市立下和泉小学校	主幹教諭
実行委員	須永 昌男	浜視連幹事	横浜市立谷本小学校	教諭

委員会役職	氏名	組織名	所属名	役職
実行委員	北條 完二	浜視連幹事	横浜市立深谷台小学校	教諭
実行委員	鳥井 裕子	浜視連幹事	横浜市立羽沢小学校	主幹教諭
実行委員	東森 清仁	浜視連幹事	横浜市立常盤台小学校	教諭
実行委員	高野 健一	浜視連幹事	横浜市立柏尾小学校	教諭
実行委員	藤原 直樹	浜視連幹事	横浜市立西富岡小学校	教諭
実行委員	細野 友貴	浜視連幹事	横浜市立新鶴見小学校	教諭
実行委員	岡田 貴彦	浜視連幹事	横浜市立茅ヶ崎小学校	教諭
実行委員	小野 幹雄	浜視連幹事	横浜市立 初音ヶ丘小学校	教諭
実行委員	小串 智恵美	浜視連幹事	横浜市立市が尾小学校	教諭
実行委員	近藤 睦	浜視連幹事	横浜市立港北小学校	教諭
実行委員	武井 三也	浜視連幹事	横浜市立鴨志田緑小学校	教諭
実行委員	鈴木 輝美	浜視連幹事	横浜市立滝頭小学校	教諭
実行委員	神崎 健介	浜視連幹事	横浜市立桜井小学校	教諭
実行委員	山口 晃史	浜視連幹事	横浜市立南吉田小学校	教諭
実行委員	伊藤 裕哉	浜視連幹事	横浜市立今宿小学校	教諭
実行委員	大木 洋平	浜視連幹事	横浜市立上瀬谷小学校	教諭
実行委員	長崎 伸也	浜視連幹事	横浜市立仏向小学校	教諭

平成27年度 神奈川県
視聴覚・放送教育研究合同大会
横浜大会

発行 神奈川県学校視聴覚教育研究協議会
神奈川県放送教育研究協議会
神奈川県高等学校視聴覚教育研究会
横浜市学校視聴覚教育連絡協議会

発行日 平成27年11月

印刷 株式会社第一サンエー
TEL 044-222-2356

